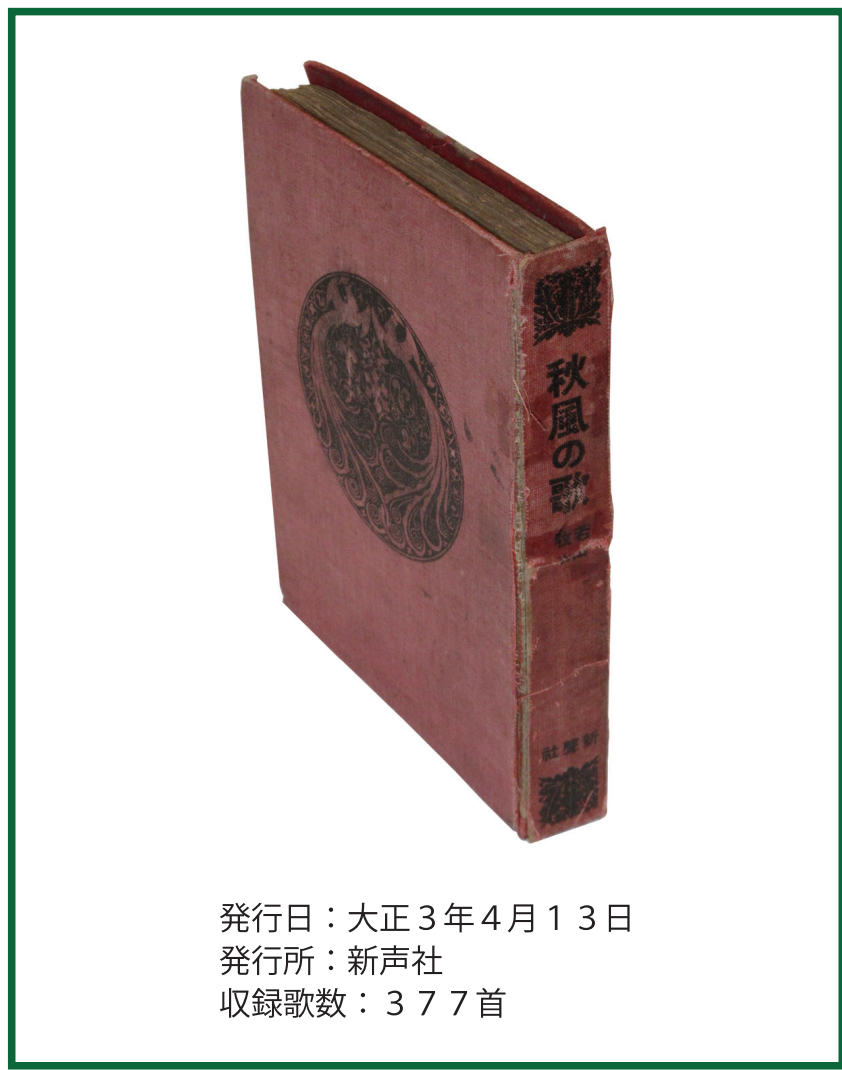


収蔵資料から

其の93 第7歌集『秋風の歌』



発行日：大正3年4月13日
発行所：新声社
収録歌数：377首

第7歌集『秋風の歌』は、大正2年夏から翌春までの歌が収録されています。父危篤の報を受けて帰郷した牧水は、文学活動が続けるために再び上京。歌は帰郷中に生まれた長男旅人との触れ合いの場面から始まります。

我が赤児ひた泣きに泣く地もそもも
しら雲となり光るくもり日

或時は寝入らむとする乳呑児の
眼ひき鼻ひきたはむれあそぶ

5・7・5・7・7の定型を外れた「破調の歌」が多い第6歌集『みなかみ』と違い、『秋風の歌』は定型に戻っています。環境と生活によるものか、鋭さや緊張感はすっかり影をひそめて、一たいに寂寥感と焦燥感とが漂っています。

牧水歌碑めぐり

其の95 京王百草園（東京都）



昭和46年建立

山の雨しばしば軒の椎の樹に
ふり来てながき夜の灯かな
摘みてはすて摘みてはすてし野の
はなの我等があとにとほく続きぬ
拾ひつるうす赤らみし梅の実に
木の間ゆきつつ歯をあてにけり

「山の雨〜」は明治39年の作、「摘みてはすて〜」は明治41年春、恋人小枝子と百草園に遊びに来て作ったものです。そして「拾ひつる〜」は翌42年、歌集『独り歌へる』を同地で編集した時の作です。

この歌碑は、当時牧水が泊まった茶店「石坂」跡地に建てられています。設計は牧水の長男旅人によるものです。



(参照『若山牧水全国歌碑集』)

文学館だより

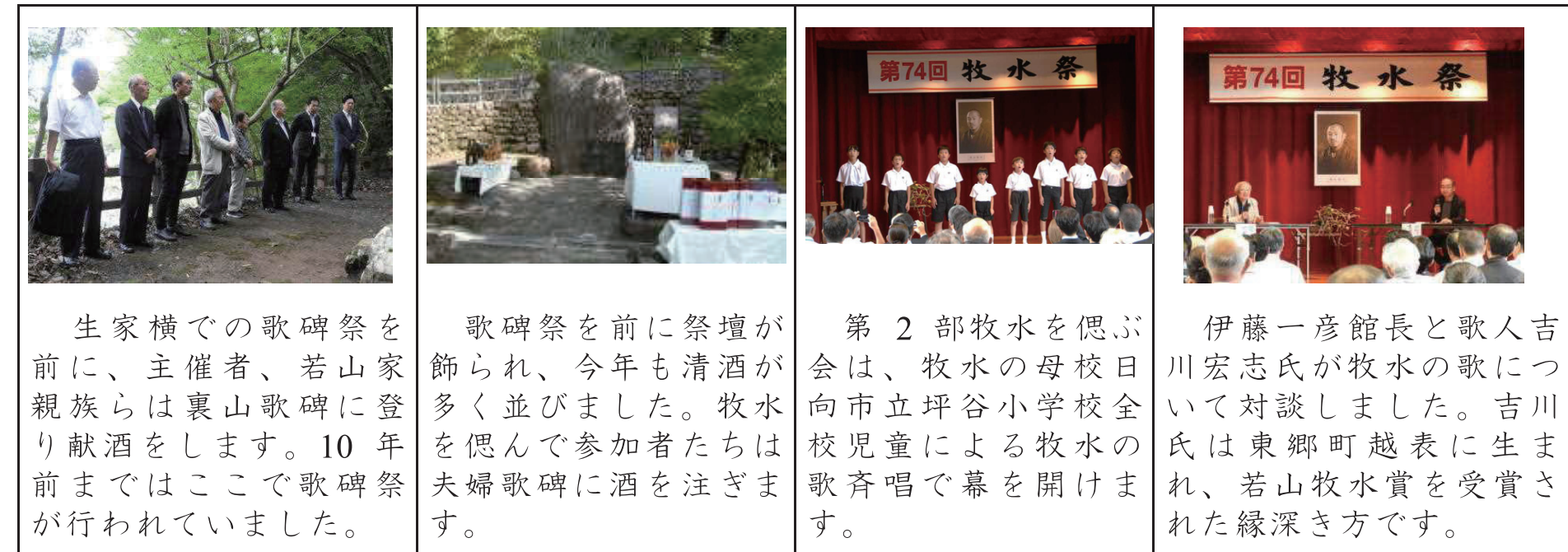
令和6年10月1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文責 日高第102号

第74回牧水祭 快晴のもと開催

9月17日は若山牧水の命日でした。牧水の生誕地坪谷では牧水祭を今年も滞りなく執り行うことができました。今年も早朝よりカメラマンが着取取材されており、3日後には直筆壁新聞が文学館に届けられました。事務局が撮りきれないコーナーがたくさんあり、ただだ頭が下がります。この大作は、早速、文学館に掲示させていただきます。圧巻です。お近くの方、どうぞお立ち寄りいただき、実物をご覧ください。ホームページにも掲載していますので、拡大してどうぞゆっくりご覧ください。



くろぎなおゆき
顕彰会会員黒木直行さん、毎年ありがとうございます。



生家横での歌碑祭を前に、主催者、若山家親族らは裏山歌碑に登り献酒をします。10年前まではここで歌碑祭が行われていました。歌碑祭を前に祭壇が飾られ、今年も清酒が多く並びました。牧水を偲んで参加者たちは夫婦歌碑に酒を注ぎます。第2部牧水を偲ぶ会は、牧水の母校日向市立坪谷小学校全校児童による牧水の歌斉唱で幕を開けます。伊藤一彦館長と歌人吉川宏志氏が牧水の歌について対談しました。吉川氏は東郷町越表に生まれ、若山牧水賞を受賞された縁深き方です。

「ヒュー！日向 マッチング短歌交流会」 文学館に集う

投稿歌に返歌が投稿されるとその時点でマッチング成立となる「ヒュー！日向 マッチング短歌」(主催 日向市)の最終回となる交流会が9月14日(土)若山牧水記念文学館を会場に開催されました。



【市民とマッチ賞】

投稿歌
あの人の笑った顔がみたいから渡しに行こうひょっとこもなか
日向市 秋田屋4代目おかみ 内田かずみさん(写真右)

返歌
先輩はその頬に詰めこみながらなかなかいけるなって笑った
山梨県甲府市 三井 幸乃さん(写真左)

実は…個人的にも秋田屋さんには寄らせてもらっていますが(笑)、おかみ内田さんは坪谷出身で、日常に牧水や短歌があったと言います。そして…返歌を詠まれた方は、なんと牧水・短歌甲子園出場者でした。当時文学館にも見学に来られており、現在は「みなと」所属。文学館の「みなと」展にも出展いただいている方でした。短歌でマッチングしたお二人が文学館と縁ある方でびっくりしました。

牧水先生の授業に行ってきました 9月25日(水)

日向市立日知屋小学校第3学年「総合的な学習の時間『若山牧水』の学習」に行ってきました。日知屋小学校は3年生で若山牧水の学習に取り組み、これまでは調べ学習を重ね、これからまじめに入る直前の時間とのことでした。

牧水はかせになろう
めあて 発見 若山牧水について新しい発見がある
きょうみ 若山牧水についてもっと知りたいと思う

を掲げ、繁時代を中心に伝えてきました。

- ◎ 牧水かるた50年の歴史を伝え、8月に行われた牧水かるた大会団体戦で優勝、準優勝、3位を独占した日知屋小学校を讃えました。
- ◎ 牧水は来年で140歳になることを伝えました。
- ◎ 牧水は小学校1年次に3回転校していること、現在の坪谷小学校の牧水顕彰活動を伝えました。
- ◎ 繁時代のエピソードを伝えました。
 - ① 川遊び前の脱衣 友達に着物を脱ぎ捨てる中、繁(牧水)は下駄をそろえ、その上に置んだ着物と帯を置き、小石で置き石をしていた。
 - ② 高等小学校時代の長旅 学校には母親が病氣だと言い、金比羅参り、大阪見物に出かけた。
 - ③ 延中第1回卒業生 延岡中学校開設に伴い、高等小学校3年で受験し合格した。
 - ④ 延中時代の数学テスト 答案用紙には答えを書かず大きな〇を書き、その裏に、世の中は三角四角じゃ渡られぬとか丸くて事はおさまると書いて提出した。数学教師からひどく叱られるが、校長先生はよくできた短歌だと褒めてくれた。
- ◎ 「牧水かるた」「命の断片」「マンガ若山牧水」「日向市内の牧水歌碑」ほかを紹介しました。

初めましての私に対し、話を一生懸命聞いてくれて元気よく応えてくれました。牧水短歌でも、牧水かるたでも、何かひとつ心に引っかかってくれればうれしいという思いで話をしました。つぶやきが意外とうれしかったりしました。

牧水先生の一首 折に触れて出会う一首を紹介しています

降ればかくれ曇ればひそみ 晴れて照るかの太陽をこころとはせよ
ふればかくれ くもればひそみ はれててる かのたいようを こころとはせよ

この歌の半切は、牧水長男旅人の箱書とともに、現在宮崎県立図書館に収蔵されている。歌集未収録歌とあり、大変貴重な一首である。9月1日に出版された伊藤一彦著『若山牧水の百首』の100番目に収められている。「書はもちろん、歌の調べと内容がすばらしい。牧水の豊かだった人生を思うとき、まさにこのような『太陽をこころ』とした生き方だったことに深い感銘をおぼえる。」と伊藤館長は鑑賞している。

かの太陽をこころとはせよ
降ればかくれ曇ればひそみ
晴れて照る
牧水

「牧水遺墨展」

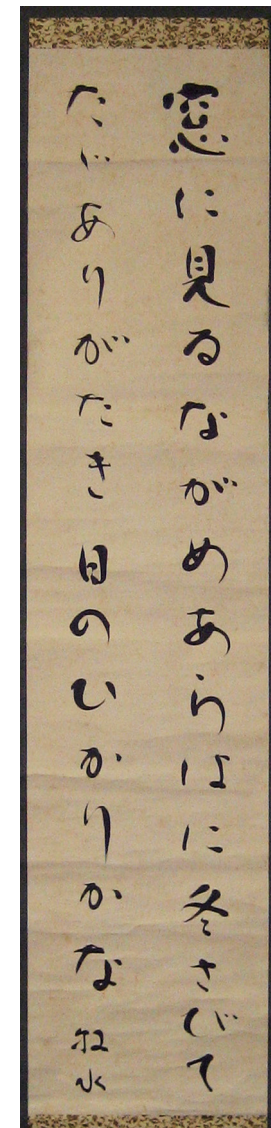
秋、冬の短歌をお楽しみください

会期 10月1日(火)~12月28日(土)
会場 若山牧水記念文学館第1展示室

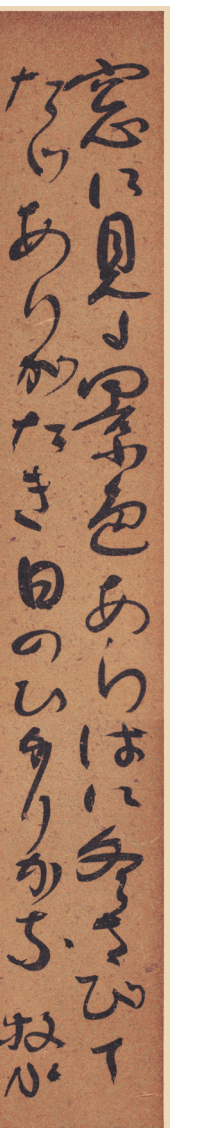
収蔵する牧水遺墨から秋、冬の短歌を展示しています。このうち、下の歌は大正8年冬に詠まれました。

この歌は歌集収録後に改作され、改作前の歌が短冊(右)に、改作後の歌が半折(左)に残されています。

今回、この2点を並べて展示しており、改作前後の歌を一度に鑑賞することができます。



(半折) 31cm×137cm



(短冊) 6cm×36cm

窓に見るながめあらはに冬さびて
たゞありがたき日のひかりかな 牧水

窓に見る景色あらはに冬さびて
たゞありがたき日のひかりかな 牧水

若山牧水記念文学館

〒888-0211 宮崎県日向市東郷町坪谷1271番地



■利用案内■
【開館時間】9:00~17:00(入館は16:30まで)
【休館日】月曜日(祝日は除く) 年末年始(12月29日~1月3日)
【入館料】小・中学生/100円 高校生以上/310円(20名以上の団体は2割引)
【お問合せ】TEL 0982-68-9511 FAX 0982-68-9512【公式HP】https://www.bokusui.jp



〈ホームページはこちら〉